



# FY2021

## 2022年3月期 決算説明資料

2022年5月19日

株式会社日本製鋼所  
代表取締役社長 松尾 敏夫

## 1. 不適切行為の概要

対象：タービン・発電機用ローターシャフト、発電機用リテーニングリング  
内容：残留応力試験・硬度測定試験の測定位置の変更や不足、測定値の書換  
レードル分析のガス分析値の書き換え及び省略

## 2. 対応

### ① 特別調査委員会

委員：宮川 勝之氏（東京丸の内法律事務所弁護士 パートナー）

高松 薫氏（隼あすか法律事務所弁護士 パートナー）

目的：より詳細な事実調査と原因究明、調査対象の拡大と検証、再発防止策の策定に向けた助言、当社全体の品質保証体制の調査及び検証と、それら結果に基づく提言等。

設置：2022年5月9日

結果：2022年10月末を目途に調査、結果は公表の予定。途中経過も適時適切に開示予定。

### ② 事実調査と関係各社への報告

不適切行為の確認された工事につき、事実確認とお客様へのご報告を早急  
に実施、関係各社のご協力もいただき、製品の品質・評価を実施。

## 【ご注意】

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



## 不適切行為の発生について

### PART I 2022年3月期 実績

- 06 受注高・売上高・利益の状況
- 07 営業利益増減要因
- 08 セグメント別
- 09 産業機械事業
- 10 素形材・エンジニアリング事業
- 11 設備投資・減価償却費、キャッシュ・フロー、財務体質、研究開発費の状況

### PART II 2023年3月期 通期計画

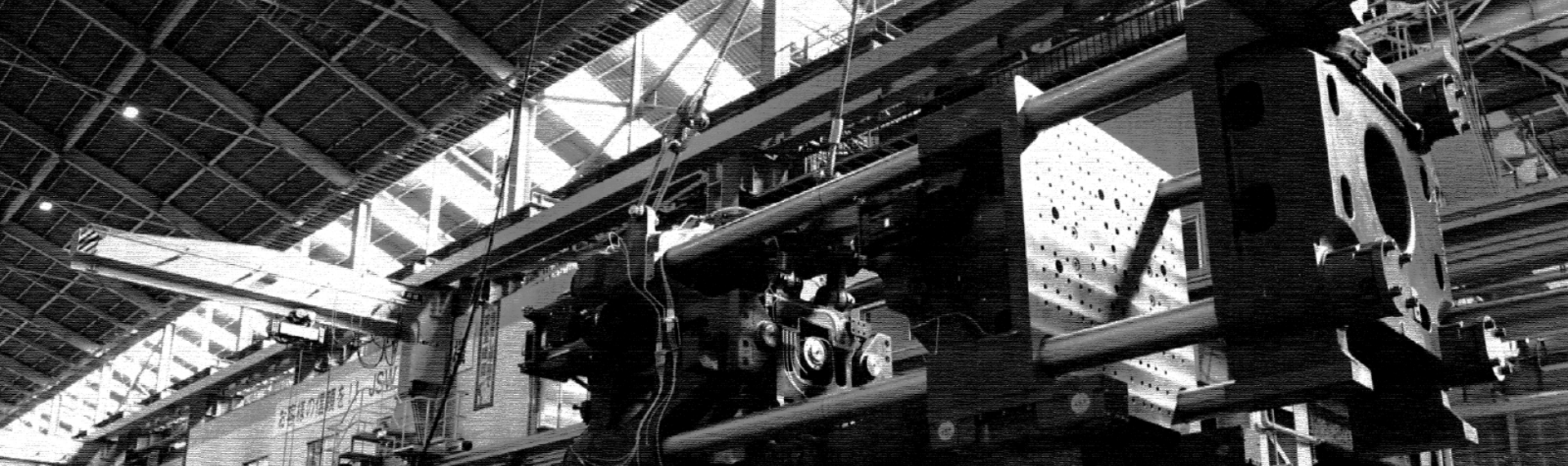
- 13 受注高・売上高・利益の計画
- 14 営業利益増減要因
- 15 セグメント別
- 16 産業機械事業
- 17 素形材・エンジニアリング事業
- 18 受注残高の推移

### PART III 事業概況

- 20 産業機械事業 主要製品の今期受注概況
- 21 素形材エンジニアリング事業 主要製品の今期受注概況
- 22 JGP2025：基本4方針の取り組み状況
- 23 フィルム・シート製造装置事業の見通し
- 24 成形機欧州拠点の設置
- 25 窒化ガリウム事業への取り組み

#### 参考資料（26～31）：

当社 新社長の紹介/事業セグメントの構成と主要製品 / 売上高・営業利益・純利益の推移 / 主要な財産状況・キャッシュ・フローの推移 / 日本製鋼所企業行動基準（2018年4月1日 改正）



# 2022年3月期 実績

## PART I



## 受注高・売上高・利益とも前期を上回る

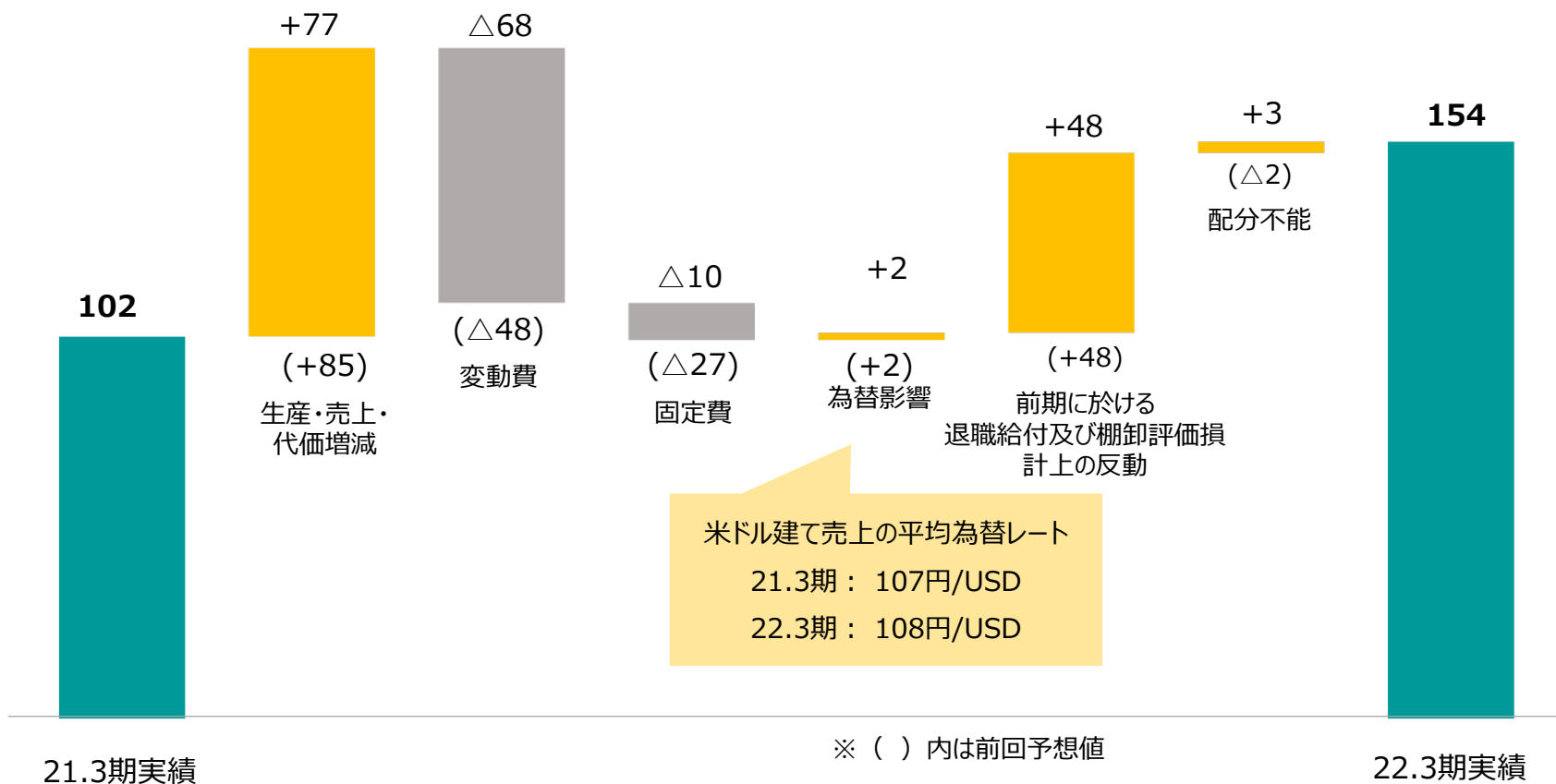
(単位：億円)

	21.3期 実績 (A)	22.3期		前期比 (C)-(A)	前回予想比 (C)-(B)
		前回予想 (21.11.19時点) (B)	実績 (C)		
受注高	1,810	2,710	<b>2,683</b>	873	△ 27
売上高	1,980	2,260	<b>2,137</b>	157	△ 123
営業利益 (率)	102 5.2%	160 7.1%	<b>154 7.2%</b>	52	△ 6
経常利益	107	160	<b>167</b>	60	7
純利益	68	110	<b>139</b>	71	29
1株当たり 純利益 (円)	93.76	149.55	<b>189.63</b>	95.87	40.08
1株当たり 配当金 (円)	35	45	<b>57</b>	22	12

## 2022年3月期：営業利益増減要因

生産・売上・代価増、前期の退職給付及び棚卸評価損計上の反動により52億円増益

(単位：億円)



### 両セグメントとも受注高・売上高が前期比で伸長

#### 産業機械事業

(単位：億円)

	21.3期 実績 (A)	22.3期		前期比 (C)-(A)	前回予想比 (C)-(B)
		前回予想 (21.11.19時点) (B)	実績 (C)		
受注高	1,452	2,285	<b>2,248</b>	796	△ 37
売上高	1,563	1,805	<b>1,711</b>	148	△ 94
営業利益 (率)	139 8.9%	188 10.4%	<b>177 10.3%</b>	38	△ 11

#### 素形材・エンジニアリング事業

(単位：億円)

	21.3期 実績 (D)	22.3期		前期比 (F)-(D)	前回予想比 (F)-(E)
		前回予想 (21.11.19時点) (E)	実績 (F)		
受注高	327	390	<b>401</b>	74	11
売上高	385	420	<b>400</b>	15	△ 20
営業利益 (率)	18 4.7%	12 2.9%	<b>13 3.3%</b>	△ 5	1



樹脂製造・加工機械の受注はフィルムシート装置等の大幅な伸長により前期比増加  
成形機の受注はプラスチック・マグネシウムともに前期比伸長し増加

### 売上高・営業利益

(単位：億円)

	21.3期 実績	22.3期		前期比 (C)-(A)	前回 予想比 (C)-(B)
	(A)	前回予想 (21.11.19) (B)	実績 (C)		
樹脂製造・ 加工機械	588	660	621	33	△ 39
成形機	545	710	653	108	△ 57
その他	430	435	437	7	2
合計	1,563	1,805	1,711	148	△ 94
営業利益	139	188	177	38	△ 11

### 受注高

(単位：億円)

	21.3期 実績	22.3期		前期比 (F)-(D)	前回 予想比 (F)-(E)
	(D)	前回予想 (21.11.19) (E)	実績 (F)		
	474	1,075	1,112	638	37
	574	815	711	137	△ 104
	404	395	425	21	30
	1,452	2,285	2,248	796	△ 37

## クラッド鋼板と一般鍛鋼品の伸長により受注は増加

### 売上高・営業利益

(単位：億円)

	21.3期 実績	22.3期		前期比 (C)-(A)	前回 予想比 (C)-(B)
	(A)	前回予想 (21.11.19) (B)	実績 (C)		
鍛鋼品	199	255	254	55	△ 1
クラッド鋼板・ 鋼管	105	65	60	△ 45	△ 5
エンジニアリング 他	81	100	86	5	△ 14
合計	385	420	400	15	△ 20
営業利益	18	12	13	△ 5	1

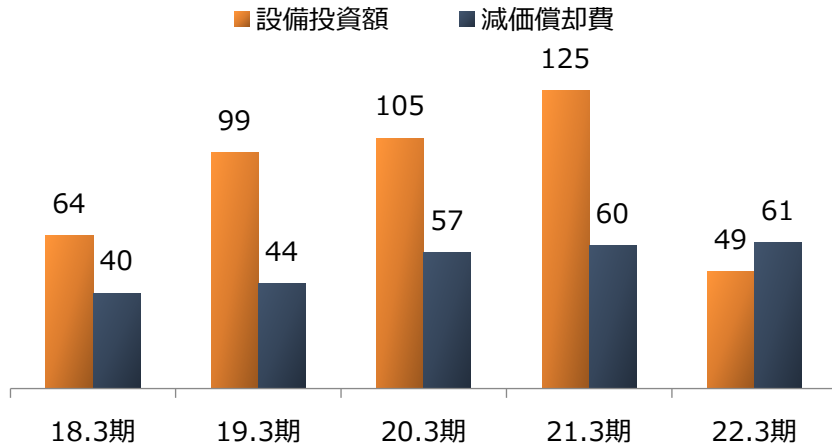
### 受注高

(単位：億円)

	21.3期 実績	22.3期		前期比 (F)-(D)	前回 予想比 (F)-(E)
	(D)	前回予想 (21.11.19) (E)	実績 (F)		
鍛鋼品	219	210	242	23	32
クラッド鋼板・ 鋼管	17	85	72	55	△ 13
エンジニアリング 他	91	95	87	△ 4	△ 8
合計	327	390	401	74	11

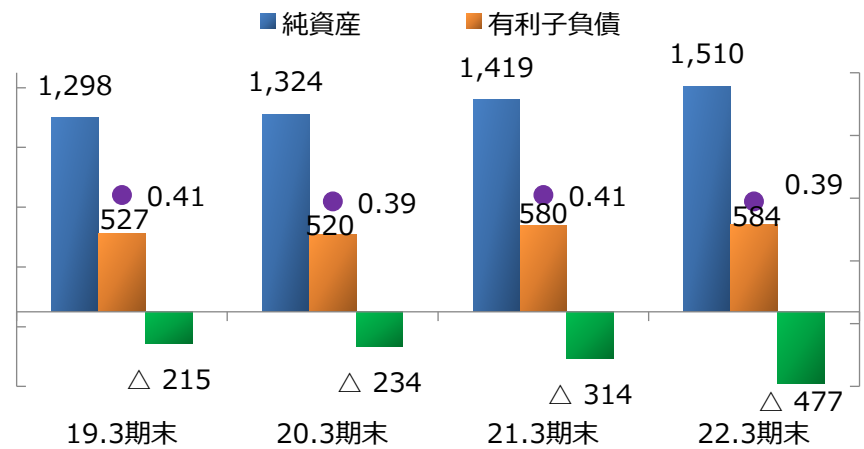
# 2022年3月期：設備投資・減価償却費、キャッシュ・フロー、財務体質、研究開発費の状況

## 設備投資・減価償却費の状況

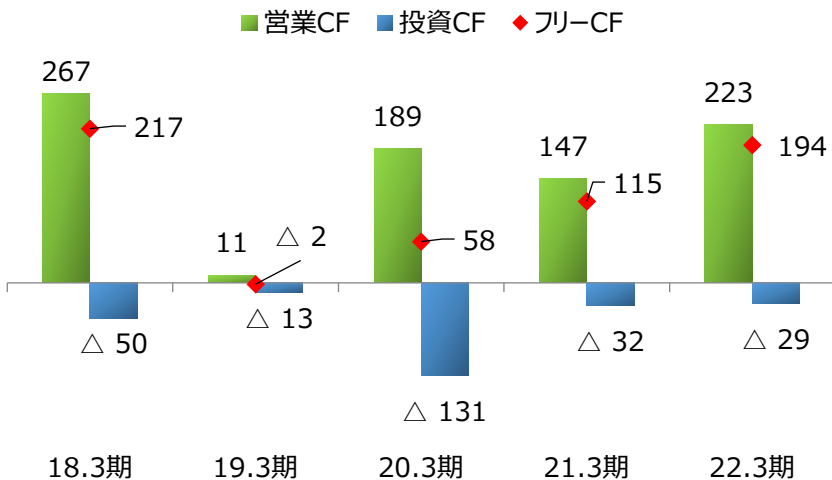


## 財務体質の状況

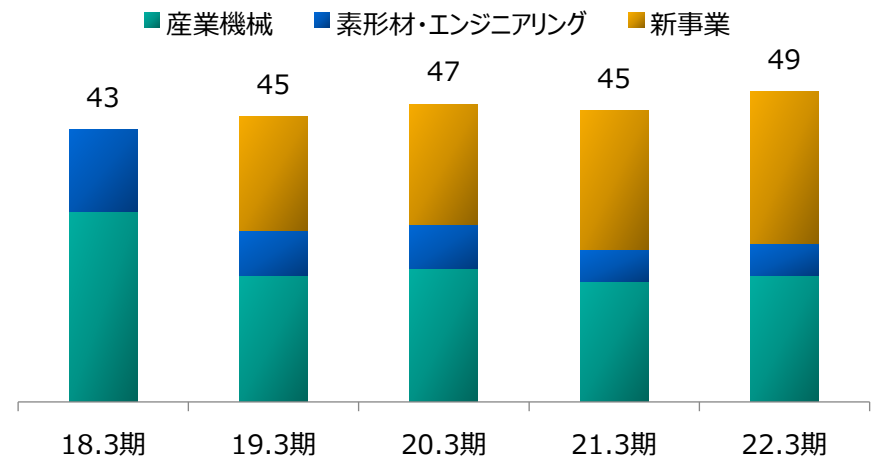
(単位：億円)



## キャッシュ・フローの状況



## 研究開発費の状況





# 2023年3月期 通期計画

## PART II





## 受注高・売上高・利益とも前期比増を計画

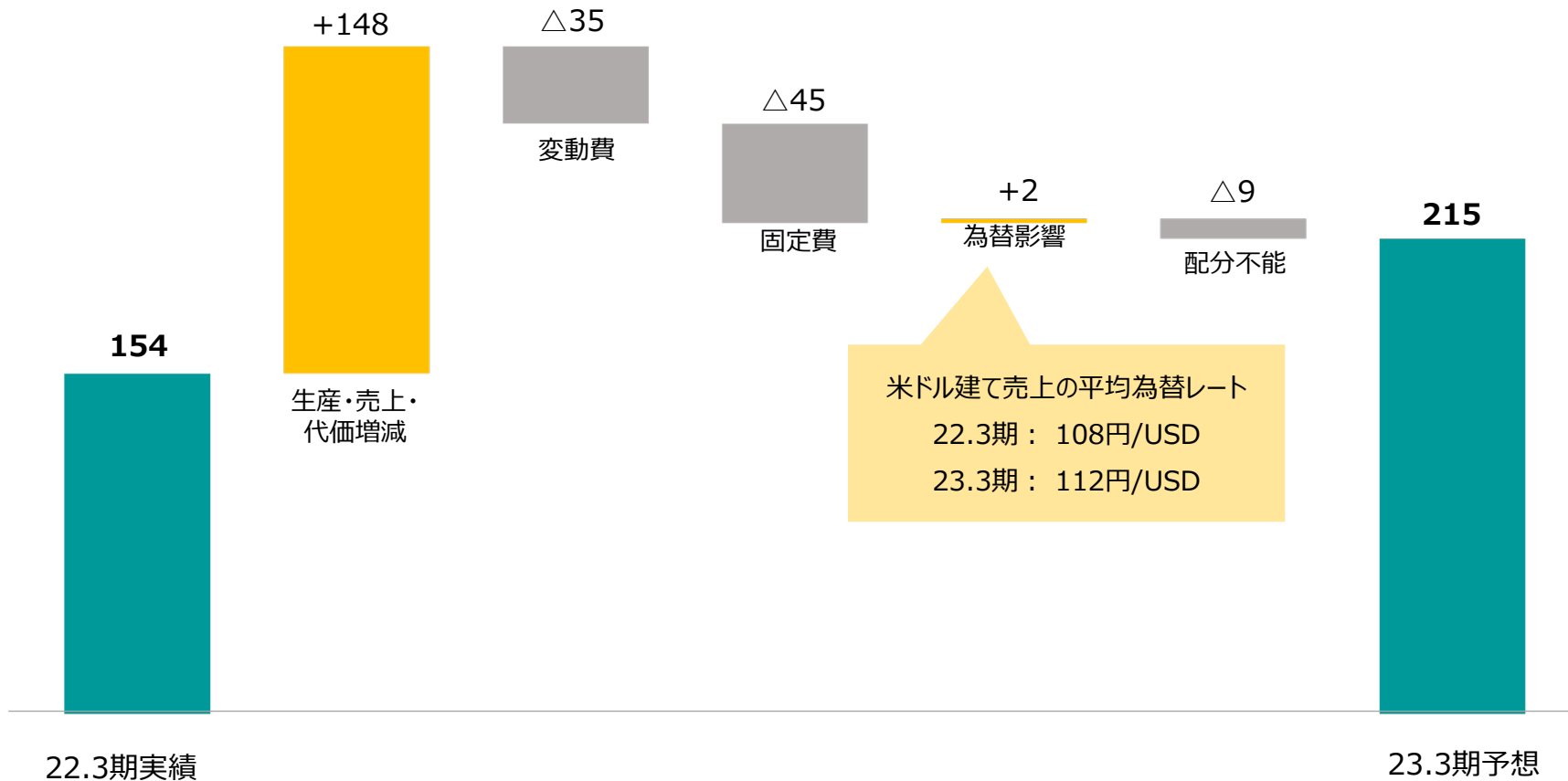
(単位：億円)

	22.3期 実績 (A)	23.3期 通期予想 (B)	前期比 (B)-(A)
受注高	2,683	2,800	117
売上高	2,137	2,660	523
営業利益 (率)	154 7.2%	215 8.1%	61
経常利益	167	220	53
純利益	139	-	-
1株当たり純利益 (円)	189.63	-	-
1株当たり 配当金 (円)	57	-	-

(注)当期純利益については、子会社である日本製鋼所M&E株式会社が生産する製品の一部分において判明した不適切行為が業績に与える影響を現時点で見通すことが困難であるため、未定といたします。このため、配当予想についても未定といたします。今後、合理的な算定が可能となった時点で速やかにお知らせいたします。

## 生産・売上の増加等により61億円増益

(単位：億円)



## 産業機械が全社の業績を引き続きリード

### 産業機械事業

(単位：億円)

	22.3期 実績 (A)	23.3期 予想 (B)	前期比 (B)-(A)
受注高	2,248	2,385	137
売上高	1,711	2,210	499
営業利益 (率)	177 10.3%	245 11.1%	68

### 素形材・エンジニアリング事業

(単位：億円)

	22.3期 実績 (A)	23.3期 予想 (B)	前期比 (B)-(A)
受注高	401	385	△ 16
売上高	400	420	20
営業利益 (率)	13 3.3%	15 3.6%	2

## 樹脂製造・加工機械、成形機とも受注環境は良好

### 売上高・営業利益

(単位：億円)

	22.3期 実績 (A)	23.3期 予想 (B)	前期比 (B)-(A)
樹脂製造・ 加工機械	621	960	339
成形機	653	790	137
その他	437	460	23
合計	1,711	2,210	499
営業利益	177	245	68

### 受注高

(単位：億円)

	22.3期 実績 (C)	23.3期 予想 (D)	前期比 (D)-(C)
樹脂製造・ 加工機械	1,112	1,115	3
成形機	711	770	59
その他	425	500	75
合計	2,248	2,385	137



## エンジニアリング他の伸長を織り込み 概ね前期並みの受注を見込む

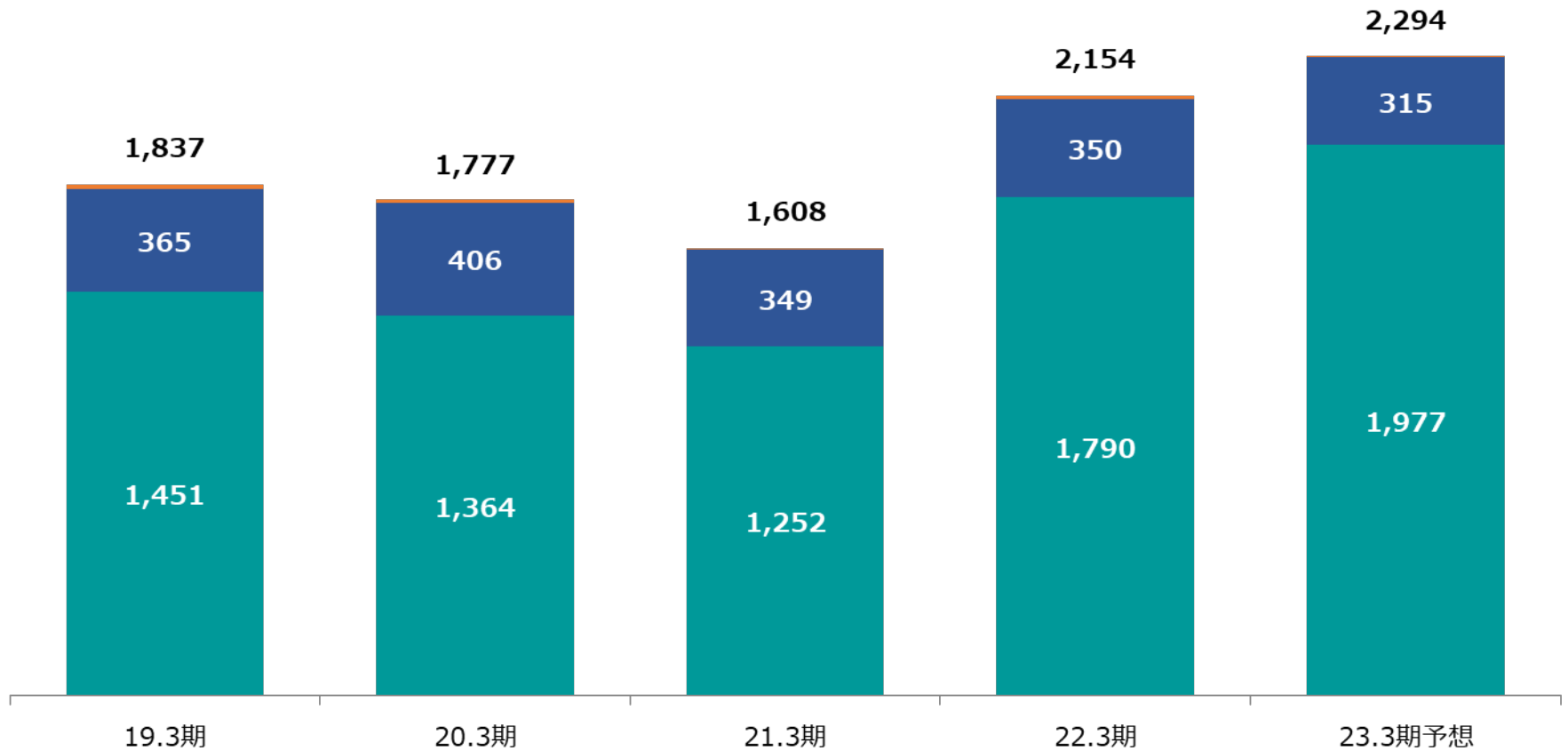
売上高・営業利益				受注高		
(単位：億円)				(単位：億円)		
	22.3期 実績 (A)	23.3期 予想 (B)	前期比 (B)-(A)	22.3期 実績 (C)	23.3期 予想 (D)	前期比 (D)-(C)
鍛造鋼品	284	305	21	301	280	△ 21
エンジニアリング 他	116	115	△ 1	100	105	5
合計	400	420	20	401	385	△ 16
営業利益	13	15	2			

\* 今期より『クラッド鋼板・鋼管』の区分を廃し、鋼板を『鍛造鋼品』へ、鋼管を『エンジニアリング他』へ組み替えております。

## セグメント別受注残高の推移

■ 産業機械 ■ 素形材・エンジニアリング ■ その他

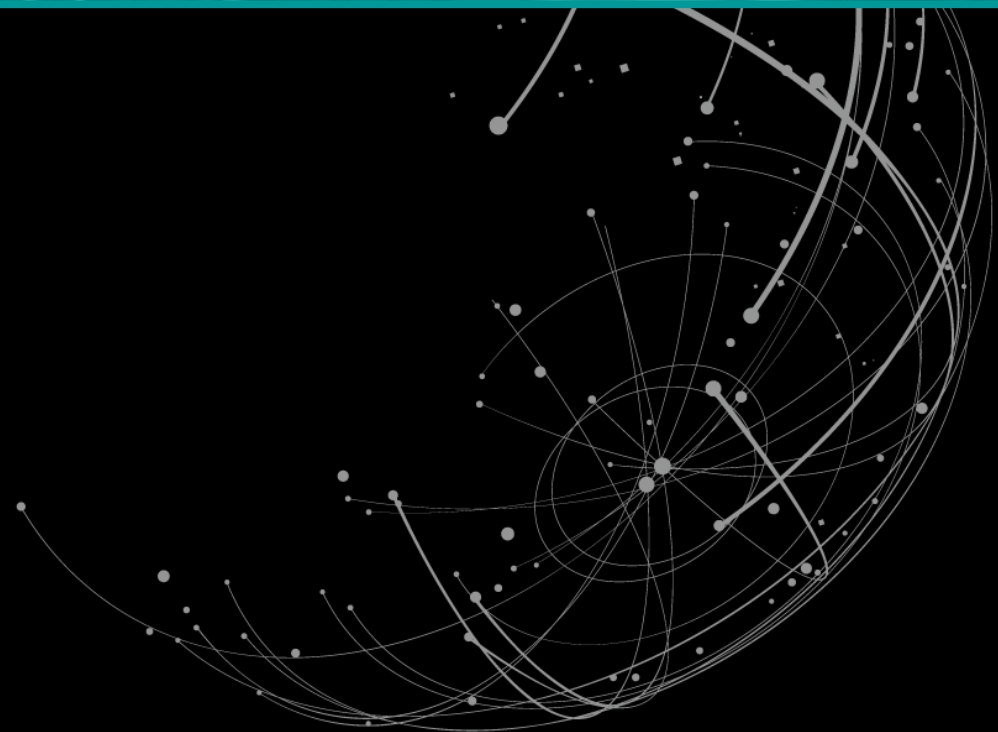
(単位：億円)





# 事業概況

## PART III



## 産業機械事業 主要製品の今期受注概況

産業機械事業	景況感 (前期対比)	受注環境
フィルム・シート製造装置		<ul style="list-style-type: none"> <li>● EV車増産を背景にした旺盛なインフラ投資によりセパレータ用途の市況は好調を継続</li> <li>● 工業用途等のフィルム・シート装置の需要も好調に推移</li> </ul>
造粒機		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中国を中心として好調な市場が継続</li> </ul>
二軸混練押出機		<ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナウイルスの影響で低迷していた市場は回復</li> </ul>
成形機		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市場は回復、好調な市場が継続</li> <li>● 欧州市場にて油圧から電動への切り替えの動き</li> </ul>
FPD装置		<ul style="list-style-type: none"> <li>● スマホ・ITパネルの需要が再拡大し、投資が回復</li> </ul>
アフターサービス		<ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナウイルスの影響で低迷していた市場は一昨年第1四半期（20/4-6）を底に回復傾向</li> </ul>



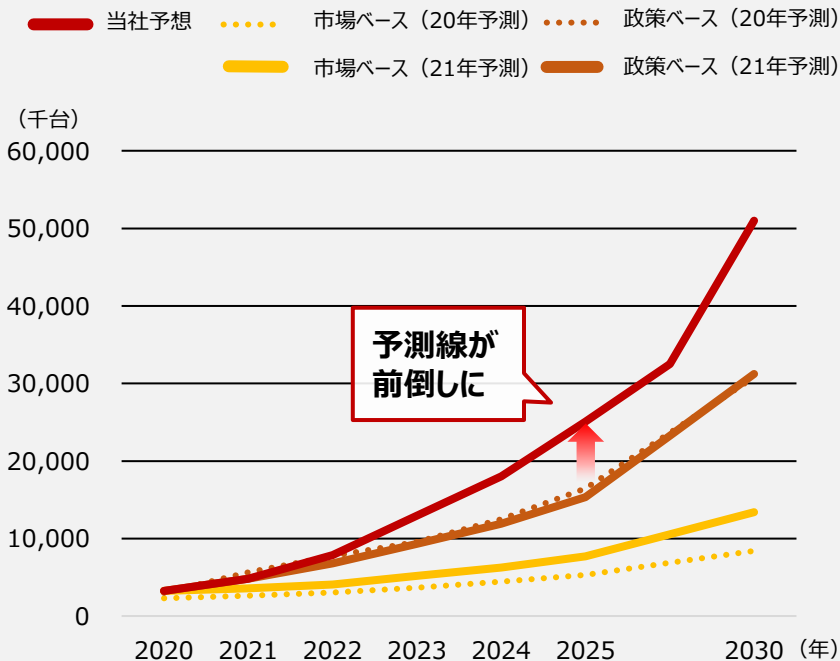
## 素形材・エンジニアリング事業 主要製品の今期受注概況

素形材・エンジニアリング事業	景況感 (前期対比)	受注環境
<p>鋳鍛鋼品</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市場はコロナウイルスの影響から回復、堅調に推移</li> <li>● 電力製品にて判明した検査に係る不適切行為を受け、当該製品の新規受注はお客様との慎重な協議により判断。</li> </ul>
<p>クラッド製品</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原油価格の高止まりを受け、石油精製・石油化学関連の投資は回復傾向。</li> </ul>
<p>エンジニアリング他</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● プラント改修工事、公共事業工事に期待</li> </ul>

基本方針	具体的な施策
<p>①世界に類を見ないプラスチック 総合加工機械メーカーへ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>EV向けに大幅な需要増加が見込まれるセパレータ用フィルム・シート製造装置について、60ライン製造に向けて生産体制を着実に増強</li> <li>コンデンサー用などのフィルム・シート製造装置への取り組み強化</li> <li>広島製作所にケミカルリサイクル対応の技術開発センターを建設中</li> <li>二軸混練押出機の世界標準機を開発し、中国、東南アジア市場へ展開</li> <li>自動車の軽量化に伴い需要拡大が見込まれる大型マグネシウム射出成形機を開発</li> <li>射出成形機 欧州拠点の設置</li> </ul>
<p>②素形材・エンジニアリング事業の 継続的な利益の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鋳鍛鋼製品における高収益化を目的とした製品ポートフォリオの見直しを鋭意推進</li> <li>天然ガス輸送管を主としたクラッド鋼管事業を縮小し、クラッド鋼板事業に特化</li> </ul>
<p>③新たな中核事業の創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代半導体関連装置などを開発・上市し、電子デバイス関連装置事業における製品ラインナップを更に充実</li> <li>窒化ガリウム基板の量産に向けて大型実証設備の稼働を開始</li> <li>世界最先端の銅合金素材製造設備が完成し、稼働を開始</li> </ul>
<p>④ESG経営の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ESG推進室を新たに設置し、取り組みを強化</li> </ul>

## EV車生産加速を見込み、 車載用電池メーカーやセパレータフィルム製造メーカーが投資増を継続

### EV車（PHEV+EV）の生産台数予測



出典：  
「20年予測」データは株式会社野村総合研究所「2020年版 車載用リチウムイオン電池市場の現状と将来展望～1st Half Report～」、「21年予測」データは同研究所「2020-2021年版 車載用リチウムイオン電池市場の現状と将来展望」より引用。「21年予測」レポートは新型コロナウイルスによる経済への影響など、「20年予測」レポート発行以降の動向を追加調査し反映したもの

(※)「政策ベース」の予測は自動車メーカー各社及び各国政府のxEV（電動車）導入目標台数が概ね計画通りに実現されることを想定し、比較的高い成長率で推移するシナリオ。  
「市場ベース」の予測は、消費者側のニーズを含め、xEV普及拡大に向けた各種課題解決にある程度の時間を要する設定とし、政策ベース予測に比べて成長率は低めで推移するシナリオ

「20年予測」データは2020年見込値、2021年以降は予測値（2020年7月現在）、「21年予測」データは2020年実績値、2021年以降予想値（2021年2月現在）

### セパレータフィルム生産能力



リードタイムを考慮すると、2022年～25年までに  
市場需要 80～100ライン/年  
当社受注 50～60ライン/年 が見込まれる

### 当社の対応

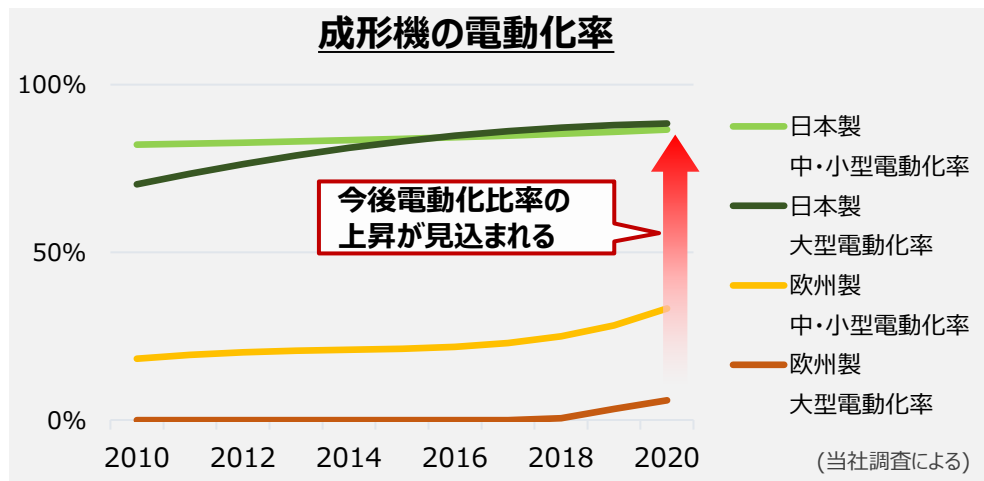
当初の計画を前倒しし、

2023年3月までに**50ライン体制**を確立

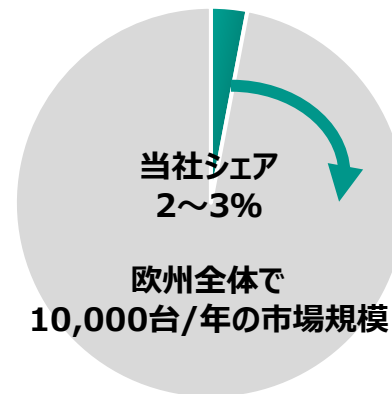
2024年3月までに**60ライン体制**を確立

## 欧州市場の現状

欧州メーカーは長年油圧機を供給してきたが、近年環境意識の高まりで電動化が進む。



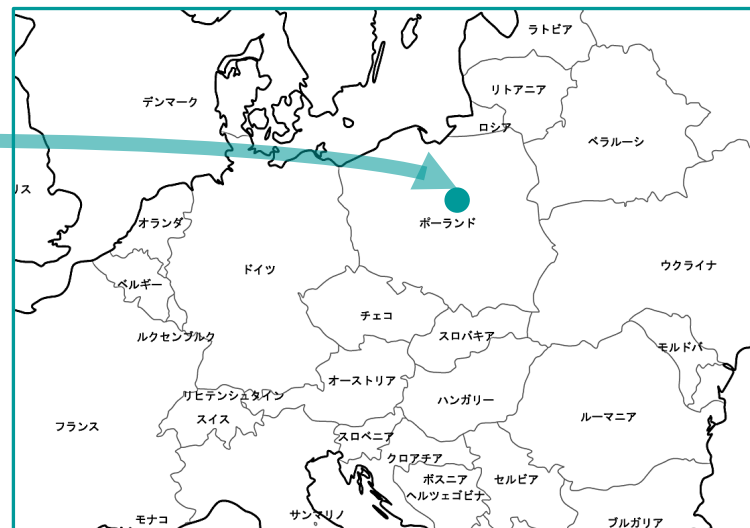
欧州市場におけるシェア



## 当社の対応

ポーランド・ワルシャワ近郊に  
**生産・サービス拠点を設立 (総面積3,350m<sup>2</sup>)**

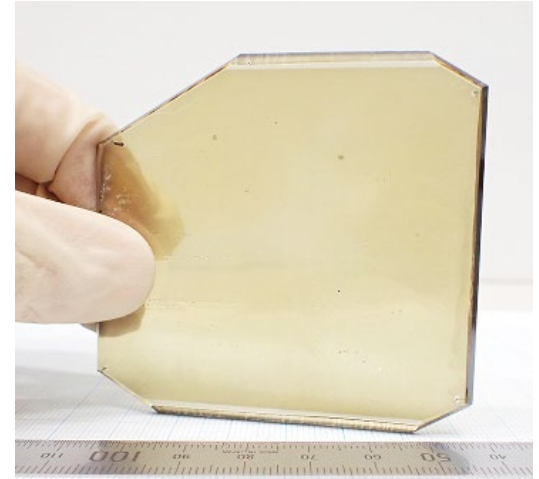
当社が強みを持つ大型機を中心に、  
**欧州市場でのシェア拡大を目指す**





### 窒化ガリウム (GaN) 単結晶基板の量産法を開発

- ・ 2017-2019年、三菱ケミカル(株)・東北大学と共同で、低圧酸性アモノサーマル法を活用した製造技術を開発、4インチの均一な結晶成長を確認。  
(NEDO/ 低炭素社会を実現する次世代パワーエレクトロニクスプロジェクト)
- ・ 2020年からは量産に向けた実証実験を開始。2021年5月には大型実証設備を稼働し、4インチの窒化ガリウム基板の生産に成功。  
(NEDO/ 戦略的省エネルギー技術革新プログラム)



大型実証設備により成長させた  
窒化ガリウム (GaN) 結晶

### 【窒化ガリウム(GaN)基板の貢献が期待される分野】

- **パワー半導体**：シリコン系基板に比べ電力損失を低減、省エネ・省電力に貢献
- **高速通信**：広い帯域での高周波動作が可能、超高速・大容量通信の実現に貢献



# 参考資料





代表取締役社長

松尾 敏夫

Toshio Matsuo

1962年3月6日生

九州大学工学部卒

1984年4月 株式会社日本製鋼所入社

2013年4月 当社 広島製作所 副所長

2015年4月 当社 広島製作所 所長

2016年4月 当社 執行役員

2017年4月 当社 取締役常務執行役員

2020年4月 当社 代表取締役 副社長

2022年4月 当社 代表取締役 社長



# 事業セグメントの構成と主要製品

事業セグメント	産業機械事業			素形材・エンジニアリング事業		その他事業			
事業組織	樹脂機械事業部、成形機事業部、産業機械事業部、特機本部			日本製鋼所M&E		新事業推進本部			
生産拠点	<p>広島                      横浜                      名古屋</p> 			室蘭					
製品	<p><b>【樹脂製造・加工機械】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>造粒機</li> <li>フィルム・シート製造装置</li> <li>二軸混練押出機</li> <li>アフターサービス</li> </ul>  <p><b>【成形機】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プラスチック射出成形機</li> <li>マグネシウム射出成形機</li> <li>中空成形機</li> <li>アフターサービス</li> </ul>  <p><b>【その他産業機械】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エキシマレーザーアニール(ELA)装置</li> <li>防衛関連機器</li> <li>鉄道製品</li> <li>ホットプレス</li> <li>ラミネータ</li> <li>成膜装置</li> <li>アフターサービス</li> </ul> 			<p><b>【鍛鋼品】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>反応容器部材 (シェル、ヘッド他)</li> <li>蒸気発生器部材</li> <li>ローター軸</li> <li>タービンケーシング</li> <li>金型用鋼</li> <li>製鉄用圧延ロール</li> </ul>  <p><b>【クラッド製品】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クラッド鋼板</li> <li>クラッド鋼管</li> </ul>  <p><b>【エンジニアリングサービス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プラント・インフラ鋼構造物及び工事</li> <li>非破壊検査・分析検査サービス</li> <li>水素蓄圧機・水素吸蔵合金タンク</li> </ul> 		<p><b>【新事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>フォトニクス</li> <li>複合材料</li> <li>金属材料</li> </ul>			
市場	石油化学	産業機械	自動車	IT	防衛	電力・鉄鋼	石油・天然ガス	自然エネルギー	新事業

# 売上高・営業利益・純利益の推移

(単位：億円)

	17.3期	18.3期	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期
売上高	2,124	2,129	2,201	2,175	1,980	2,137
産業機械事業	1,593	1,702	1,736	1,714	1,563	1,711
樹脂製造・加工機械	361	502	525	613	588	621
成形機	576	645	727	653	545	653
FPD装置	-	-	164	-	-	-
その他	468	370	204	448	430	437
連結会社	188	185	116	-	-	-
素形材・エンジニアリング事業	512	408	412	428	385	400
鋳鍛鋼品	-	-	-	196	199	254
電力・原子力	193	172	125	-	-	-
石油精製用圧力容器	17	10	-	-	-	-
クラッド鋼板・鋼管	135	70	130	128	105	60
エンジニアリング他	-	-	-	104	81	86
風力発電機	39	16	-	-	-	-
その他	53	55	95	-	-	-
連結会社	75	85	62	-	-	-
その他事業	18	17	52	46	31	26
営業利益	123	213	242	187	102	154
産業機械事業	151	238	235	192	139	177
素形材・エンジニアリング事業	△ 28	△ 15	26	27	18	13
その他事業	9	8	3	△ 4	0	0
純利益	△ 49	107	199	93	68	139

※21.3期より、集計区分を変更（20.3期より組み替えて表示しています）。

- ・「産業機械事業」の「連結会社」としていた3社（ジーエムエンジニアリング社、ニチユマシナリー社、SM Platek社）を「樹脂製造・加工機械」に変更。
- ・「産業機械事業」の「FPD装置」「その他」「連結会社」を「その他」に変更。
- ・「素形材・エンジニアリング事業」の「鋳鍛鋼品」のうちの石油精製用圧力容器と、「その他事業」のうちの風力保守業務を、「素形材・エンジニアリング事業」の「エンジニアリング他」に変更。

## 主要な財産状況・キャッシュフロー等の推移

(単位：億円)

	17.3期	18.3期	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期
総資産	2,753	2,974	3,055	2,971	3,162	3,397
純資産	1,075	1,186	1,298	1,324	1,419	1,510
1株あたり純資産額（円） ※17.3期以降は株式併合後	1,446.44	1,592.47	1,746.91	1,778.94	1,908.76	2,031.29
自己資本比率（%）	38.6	39.3	42.0	44.0	44.4	44.0
自己資本利益率（%）	△4.6	9.6	16.3	7.2	5.1	9.6
営業活動によるキャッシュフロー	120	267	11	189	147	223
投資活動によるキャッシュフロー	△135	△50	△13	△131	△32	△29
財務活動によるキャッシュフロー	△12	△24	△37	△61	27	△28
現金及び現金同等物の期末残高	586	778	738	744	887	1,057



## 日本製鋼所企業行動基準（2018年4月1日 改正）

日本製鋼所グループは、持続可能な社会の実現を目指す企業として、次の10原則に基づき、国の内外において、全ての法律、国際ルール及びその精神を遵守するとともに、高い倫理観をもって社会的責任を果たしていく。

1. 持続可能な経済成長と社会的課題の解決を図るために、イノベーションを通じて、社会に有用で安全性に配慮した製品・技術・サービスを開発・提供する。
2. 公正かつ自由な競争に基づく適正な取引、責任ある調達を行う。また、政治、行政とは健全な関係を維持する。
3. 企業価値向上のため、適切な企業情報を積極的かつ公正に開示し、幅広いステークホルダーとの建設的な対話を行う。
4. 全ての人々の人権を尊重する。
5. 市場や顧客のニーズを製品・技術・サービスに反映した上で、顧客からの問い合わせ等に速やかに対応することにより、社会と顧客の満足と信頼を獲得する。
6. 従業員の多様性、人格、個性を尊重する働き方を実現し、良好な職場環境を確保する。
7. 環境問題への取り込みは企業としての重要な責務であることを認識し、主体的に活動する。
8. 企業市民として、社会に参画し、その発展に貢献する。
9. 市民社会や企業活動に脅威を与える反社会的勢力やテロ、サイバー攻撃、自然災害等に対して、組織的な危機管理を徹底する。
10. 経営トップは、この行動基準の精神の実現が自らの役割であることを認識し、実効あるガバナンスを構築した上で、当社および関連会社に周知徹底を図り、あわせてサプライチェーンにも本行動基準の精神に基づく行動を促す。また、本行動基準の精神に反し、社会からの信頼を失うような事態が発生した時には、経営トップが率先して問題解決、原因究明、再発防止等に努め、その責任を果たす。

**JSW**

**THE JAPAN STEEL WORKS, LTD.**

